

## 地域福祉活動計画策定委員会 第10回委員会 会議録

1. 日時 平成26年12月16日(火)16:00-17:00
2. 場所 ベルウィンこもろ 3階虹のホール
3. 参加委員等(14名)  
中村委員長、山本副委員長、小川委員、坂本委員、相良委員、竹中委員、田中委員、中山委員、西川委員、福島委員、牧野委員、松本委員、三島委員、小林アドバイザー  
欠席委員等(3名)  
望月委員、村上委員、上野谷相談役
4. 内容
  - (1) 開会
  - (2) 経過報告…事務局より説明。
  - (3) 地域福祉活動計画案の最終確認…資料を基に確認。
  - (4) 地域福祉活動計画の答申…委員長より社会福祉協議会会長へ答申。
  - (5) 社会福祉協議会会長あいさつ
  - (6) その他
  - (7) 閉会

## 議事要点

### 1. 開会

(委員長) 議論を重ね、10 回目の委員会となった。これまでの集大成と位置付けている。前回の会議以降の経過報告を。

### 2. 経過報告

(事務局) 前回の会議で出された意見を踏まえた修正計画案を 11 月 14 日に送付したところ、誤字その他訂正箇所のご指摘をいただいた。パブリックコメントをホームページにて募集したものの寄せられた意見はない。以上を踏まえた最終素案を今回の資料とした。

### 3. 地域福祉活動計画案の最終確認

(委員長) 前回会議資料からの修正箇所等について事務局より説明を。

(事務局) 2 ページ(目次)について、第 3 章のタイトルを「参考資料」から「策定経過」に修正。3 ページ(2) 策定経過の背景内「小諸市人口推計よると」を「小諸市人口推計によると」に修正し事前送付した。送付後新たな意見はいただいていない。なお、P26 の策定委員長からのメッセージを当日資料として配布した。

(委員長) 以上の修正で最終案としてよろしいか。

(委員) 異議なし。

(委員長) 策定委員長からのメッセージは、これまでの議論を踏まえ、読みやすさを大切にしたい。委員総意としてのメッセージとしたいので、意見をお願いしたい。

(委員) わかりやすいメッセージで良い。

(委員長) 以上で審議をしたいがよろしいか。

(委員) 異議なし。

(委員長) 答申書に係る答申書案を事務局より配布を。

【事務局にて資料配布後、委員長による読み上げ】

(委員長) この案についていかがか

(委員) 異議なし。

### 4. 地域福祉活動計画の答申

### 5. 社会福祉協議会会長あいさつ

### 6. その他

(事務局) 委員の方々より一言お願いしたい。

(委員) 私は地域福祉について見識がなく、今回策定委員会で学ぶことがたくさんあった。地域福祉活動計画が各地域で有効活用されることを願うとともに、私自身も地域で役員をしているので活用していきたい。

(委員) 地域の支え合いを進めるにあたり、公民館活動と社協の連携について考える機会となった。活動計画を実施するにあたり、公民館としても主体的に関わりたい。

(委員) 高齢者クラブは全国的に会員数の減少、高齢化という状況がある。高齢者クラブ連合会の中にも優れた知識や技術を持った方がたくさんおり、どう表に出て活躍していただくかが課題。高齢者クラブ連合会や各区の高齢者クラブで支え合いを考えるにあたり、活動計画を活用したい。

(委員) 絵に描いた餅にしないためには、これからが勝負。地域福祉活動計画書を発刊することで市民は社協に興味を持つだろう。社協としても活動計画書を活用したい。また、この計画書により、地域福祉に対する行政の考え方が変わることを期待している。

- (委員)介護保険事業者も地域の力の一つとして関わり方を考えるきっかけとなった。介護保険事業者等連絡会としても地域福祉活動計画の推進に協力をしていきたい。
- (委員)現在、別の会議でも市民活動のあり方について議論されている。市民活動の拠点についても論点となっている。本日答申した活動計画が他の計画とつながり、よりよい効果を生み出すことを期待している。
- (委員)今まで支え合いについて考える機会がなかった。多くの議論が交わされる会議らしい会議だったと感じている。支える立場、支えられる立場と分けるのではなく、支え合える小諸市になると良い。
- (委員)児童から高齢者まで、そして災害、市民活動・障がい者の社会参加まで幅広く話し合え、多くの気づきをいただいた。「今できていること」に加え、「活動計画を使ってできたこと」を大切にしてほしい。
- (委員)福祉の仕事についていた当時は職業人として福祉を考えていた。市民の立場から「福祉」を考えると、身近なものとして捉えにくい。この活動計画書には、「みんなが普段から思っている素朴なことが福祉だよ」ということが表現されていると思う。福祉に興味を持ってもらうきっかけになるものができてうれしい。
- (委員)障がい者が地域の中で生活していくには、手を差し伸べられることを待つだけではなく、地域の中に出ていくことが必要。そのきっかけとなる活動計画書ができた。
- (委員)この計画書によって障がい者やその家族について、少しでも関心を持ってもらえる嬉しい。
- (副委員長)「福祉」という言葉を身近に感じたことが無かった。委員長メッセージにある「福祉とはふつうの暮らし」という表現のとおり、一人一人の暮らしを守るためにこの活動計画書が活用されることを願う。まずは各区に福祉推進委員会が設置できるように協力したい。
- (委員長)アドバイザーからも一言お願いしたい。
- (アドバイザー)様々な市町村の地域福祉活動計画について見たり聞いたりしているが、すべて『こういうことをします』『こういうことをしましょう』と住民の取り組みが書かれている。そういったものは絵にかいた餅になる可能性が高い。一方、住民の取り組みを空欄として、住民が支え合いを考えて空欄を埋めていく今回の活動計画書は画期的。この計画書を使って、支え合いを考えていただきたいが、お茶を飲みながらみんなで話すだけでも良い。そんな使われ方すら想像できるところが、この計画書の素晴らしいところ。桃栗三年柿八年というが、福祉は十年と考えている。住民と社協が支え合いについて一緒に考える中で、策定委員会では想像していなかったすばらしい取り組みが生まれることもある。私はこの計画を他の市町村にも宣伝していきたい。
- (委員長)事務局からも一言お願いしたい。
- (事務局)答申いただいた計画書を絵にかいた餅にしないよう、社協としては具体的な事業計画に落とし込みたい。この計画を実行する中で社協の周知も図りたい。
- (委員長)事務局の事業担当者からも一言。
- (事務局)今回の活動計画書は、住民・団体意見交換会、住民アンケート、策定委員会・分科会と時間と手間をかけて丁寧に作り上げていただいた。事務局素案を追認という形ではない関わり方での議論をいただいたおかげで、住民主体とは何かを社協が考えるきっかけをいただけた。諮問・答申が終わり、この策定委員会は解散となるが、今後とも助言をいただきたい。
- (委員長)何もないところから1年半前に始まった取り組みが活動計画書という形になったことは感慨深い。各委員、事務局に感謝を申し上げる。事務局より今後の予定の説明を。
- (事務局)活動計画書の活用ならびに概要版の作成について社協内部で検討している。絵に描いた餅にならぬよう取り組みを進めていくことをご承知いただきながら、今後ともご協力をお願いしたい。

## 7. 閉会

(委員長)以上をもって、策定委員会を閉会とする。